

講義科目名称： 教育実習指導

授業コード： 3154A 3154B 3154C

英文科目名称： Guidance of Pract. Teaching in Kindergarten

開講期間	配当年	単位数(週時間)	科目必選区分
前期	2年次	1単位 (0-2)	選択科目 (幼免：必修)
担当教員			
平中 尚子・吉浜 幸雅			
授業形態：演習	ナンバリング：EEP3242122		
添付ファイル			

授業のテーマ及び到達目標	<p>【テーマ】 教育実習に関する内容理解と実践</p> <p>【到達目標】 知識・理解の観点：教育実習の意義や目的を理解し、実習課題を説明することができる。 技能の観点：教師・保育教諭の援助や環境構成を具体的に記述した実習記録や指導案を作成することができる。 態度の観点：教師・保育教諭としての自覚を持ち、自己課題を明確にすることができる。</p>
授業の概要	<p>事前指導では、幼稚園・こども園の役割や機能、幼児理解、教育内容、教育環境、幼稚園教諭・保育教諭の役割と職業倫理等について具体的に学び、幼児教育の基本を理解する。事後指導では、教育実習の省察と改善点をまとめて、自己課題及び自己の教師像を明確にする。事前事後の実習指導を通して、幼児教育を理解する態度や子どもへ関わる態度を学習する。本講義では、幼稚園及びこども園での実務経験のある担当教員が、実務経験を活かして、教育実習にあたって必要な態度や心構え・教育実習後の省察について、具体的な事例を踏まえて講義する。</p>
授業計画	<p>第1回 講義概要及び評価基準説明、教育実習の意義と概要 教育実習・教育実習指導の評価基準を知り、教育実習の意義・目的・概要を理解する。また、実習の前後に必要な諸手続きの必要性を知る。 【事前学習】「2024年度版 実習の手引き」の教育実習に関する箇所を読む。(30分) 【事後学習】「2024年度版 実習の手引き」を確認し書類等を作成する。振り返りコメントを書く。(30分)</p> <p>第2回 実習計画と記録の理解 実習日誌や実習記録の書き方について学ぶ。また、実習計画書・実習レポートのテーマ設定について理解する。 【事前学習】実習園について、ホームページ等を調べる。(30分) 【事後学習】実習計画書を作成する。振り返りコメントを書く。(30分)</p> <p>第3回 特別講義 教育実習についての講話を聞き、教育実習に臨むにあたって準備することや心構えについて学ぶ。 【事前学習】幼稚園教育要領、幼保連携型認定こども園教育・保育要領を読み、幼児教育の基本について再確認する。(30分) 【事後学習】特別講義のレポートを作成し、提出する。(30分)</p> <p>第4回 模擬保育の計画と指導案作成 部分実習・責任実習について理解し、指導案作成について学ぶ。 【事前学習】部分実習指導案作成に向けて、遊びの資料等を調べる。(30分) 【事後学習】遊びの資料と部分実習指導案を作成し、提出する。振り返りコメントを書く。(30分)</p> <p>第5回 模擬保育の実践と省察、評価 部分実習指導案をもとに模擬保育を行い、実践内容についてグループ協議を行う。 【事前学習】模擬保育に向けて、教材等を準備し練習する。(30分) 【事後学習】部分実習指導案の反省・評価を記入し、提出する。振り返りコメントを書く。(30分)</p> <p>第6回 教育実習における学び 教育実習を通した学びについて理解する。また、園訪問のマナーや実習生としての心構えを確認する。 【事前学習】自己紹介に使用する教材を作成する。(30分) 【事後学習】講義で学んだ箇所の要点を整理する。振り返りコメントを書く。(30分)</p> <p>第7回 教育実習の総括 教育実習を通して自己を評価し、自己課題について考える。 【事前学習】教育実習を総括し、反省点と改善点をまとめ、自己評価する。(30分) 【事後学習】教育実習を総括した課題を提出する。振り返りコメントを書く。(30分)</p> <p>第8回 教育実習評価開示及び個別面談 教育実習評価について説明を受け、教育実習の振り返りと今後の課題を明確にする。 【事前学習】実習での学び及び自己課題を整理する。(30分) 【事後学習】今後の学びを具体化する。振り返りコメントを書く。(30分)</p>

授業における具体的な特色や方法	1) アクティブ・ラーニングを促す取組 <input type="checkbox"/> 2) 情報リテラシーに関する科目 <input type="checkbox"/> 3) ICTの活用 <input type="checkbox"/> 4) 初年次教育 <input type="checkbox"/> 5) 実践的PBL <input type="checkbox"/>
テキスト	谷口征子・大浦賢治 編著『実践につながる 新しい教育・保育実習 自ら学ぶ実習を目指して』ミネルヴァ書房 2022年 文部科学省『幼稚園教育要領』フレーベル館 2017年 文部科学省『幼稚園教育要領解説』フレーベル館 2018年 内閣府・文部科学省・厚生労働省『幼保連携型認定こども園教育・保育要領』フレーベル館 2017年 内閣府・文部科学省・厚生労働省『幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説』フレーベル館 2018年 沖縄キリスト教短期大学 2024年 『2024年度版 実習の手引き』 その他、必要な資料を配付する。
参考書	必要に応じて紹介する。
評価方法	課題60%、遊びの資料10%、部分実習指導案作成10%、部分実習指導案発表10%、特別講義感想10%で総合的に評価する。
評価基準	各評価方法に関してルーブリック評価を行う。詳細は初回講義時に説明する。 成績評価は100点満点で行い、以下のとおり評定します。 秀 (A) 90点以上：到達目標を十分に達成し、非常に優れた成果を修めている 優 (B) 80点～90点未満：到達目標を十分に達成している 良 (C) 70点～80点未満：到達目標をある程度達成している 可 (D) 60点～70点未満：到達目標を最低限達成している 不可 (F) 60点未満：到達目標を達成していない 欠 (K) - : 出席不足
卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連	<input type="checkbox"/> 1. キリスト教精神に基づき、他者と異文化への理解を深め、子どもに仕え、平和でよりよい保育環境を実現するための態度を身につける。 <input type="checkbox"/> 2. 保育者としての豊かな感性を身につけ、自らを律し他者との対話を通して、主体的に保育を実践する態度を追求する。 <input type="checkbox"/> 3. 幅広い教養教育と専門科目を通して思考力・判断力・表現力を身につける。 <input type="checkbox"/> 4. 地域を拠点に、国内外の子どもや保育の課題を解決するために貢献できる。 <input type="checkbox"/> 5. 学則に定める修業年限を満たし、卒業に要する所定の単位数を修得した者に対し、短期大学士（保育）の学位を授与する。
履修上の注意	課題等の提出期日は、厳守すること。 2023年度Student Handbookに明記されている実習の共通事項をしっかりと守ること。 教育実習に関するオリエンテーションや反省会等は、すべて出席すること。 事後学習（振り返り）のコメントをMicrosoft Teamsから提出すること。 Microsoft Teams等で提示する資料や課題を必ず確認すること。
オフィスアワー	平中：毎週*曜日*限目 平中研究室（西研3-4） 吉浜：毎週*曜日*限目 吉浜研究室（*研*）
課題に対するフィードバック方法	課題は、評価後に返却する。

開講期間	配当年	単位数(週時間)	科目必選区分
前期	2年	4単位	選択科目 (幼免：必修)
担当教員			
平中 尚子			
授業形態：実習	ナンバリング：EEP3242121		
添付ファイル			

授業のテーマ及び到達目標	<p>【テーマ】 子ども理解及び教育実践力の育成</p> <p>【到達目標】 知識・理解の観点：実習園の教育目標や地域の特性を踏まえ、幼児期の特性に応じた環境を通して行う保育について、実習を通して理解することができる。 技能の観点：子どもが環境と関わる姿を見守り、適切な援助・配慮を行うことができる。 態度の観点：教育者としての愛情と使命感をもち、責任を自覚したうえで意欲的に実習に参加することができる。</p>
授業の概要	将来、実践の場で柔軟に対応できるような実践的指導力の育成を目指し教育実習を行う。大学で学んだ理論を基盤として、幼稚園教諭・保育教諭としての職務を理解し、幼稚園・こども園での幼児理解を深め、教育実践の基礎的な能力と態度を身につける。
授業計画	<p>教育実習</p> <p>(1) 観察実習</p> <ol style="list-style-type: none"> ①園の沿革・方針・運営等、実習心得について理解する。 ②保育の1日の流れを理解する。 ③環境、施設設備等、職員組織等を理解する。 ④園長、教師・保育教諭の職務内容と役割を理解する。 ⑤幼児の生活や活動(遊び)等を理解する。 ⑥幼稚園・こども園と家庭や地域社会との連携について理解する。 ⑦その他(預かり保育・教育課程に係る教育時間外の保育など)。 <p>(2) 参加・部分実習</p> <ol style="list-style-type: none"> ①教師・保育教諭としての態度、保育の指導方法、技術を身につける。 ②幼児期の発達の特性を理解する。 ③指導計画に基づく幼児の生活や活動(遊び)、教師・保育教諭の援助と配慮、ねらいや内容について理解する。 ④指導担当教諭の補助として、環境構成、教材準備や後片付けを担う。また、クラス運営の事務処理、その他の業務を行う。 ⑤指導担当教諭に承認され、委譲された範囲で幼児の生活や活動(遊び)に加わり、保育活動の一部を分担し、積極的に参加する。 ⑥個々の幼児の指導方法について学ぶ。 <p>(3) 部分・責任実習</p> <ol style="list-style-type: none"> ①保育全般に参加し、保育技術を習得する。 ②幼児一人一人に応じた保育の指導方法を習得する。 ③幼児の家族とのコミュニケーション方法を習得する。 ④教師・保育教諭としての倫理観を理解する。 ⑤指導計画を立案し、保育実践をする。 ⑥安全および疾病予防への配慮を理解する。 ⑦教師・保育教諭に求められる資質・能力・技術を照らし合わせ、自己の課題を明確にする。
授業における具体的な特色や方法	<ol style="list-style-type: none"> 1) アクティブ・ラーニングを促す取組 <input type="checkbox"/> 2) 情報リテラシーに関する科目 <input type="checkbox"/> 3) ICTの活用 <input type="checkbox"/> 4) 初年次教育 <input type="checkbox"/> 5) 実践的PBL <input type="checkbox"/>
テキスト	<p>文部科学省『幼稚園教育要領』フレーベル館 2017年 文部科学省『幼稚園教育要領解説』フレーベル館 2018年 内閣府・文部科学省・厚生労働省『幼保連携型認定こども園教育・保育要領』フレーベル館 2017年 内閣府・文部科学省・厚生労働省『幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説』フレーベル館 2018年</p> <p>その他必要な資料は担当者が準備する。</p>
参考書	沖縄キリスト教短期大学『2024年度版 実習の手引き』
評価方法	実習園からの評価60%，実習担当教員による評価（実習日誌・実習レポート）40%
評価基準	<p>各評価方法に関してルーブリック評価を行う。詳細は初回講義時に説明する。 成績評価は100点満点で行い、以下のとおり評定します。</p> <p>秀 (A) 90点以上：到達目標を十分に達成し、非常に優れた成果を修めている 優 (B) 80点～90点未満：到達目標を十分に達成している 良 (C) 70点～80点未満：到達目標をある程度達成している 可 (D) 60点～70点未満：到達目標を最低限達成している 不可 (F) 60点未満：到達目標を達成していない 欠 (K) - ：出席不足</p>

卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連	<p>【 】 1. キリスト教精神に基づき、他者と異文化への理解を深め、子どもに仕え、平和でよりよい保育環境を実現するための態度を身につける。</p> <p>【○】 2. 保育者としての豊かな感性を身につけ、自らを律し他者との対話を通して、主体的に保育を実践する態度を追求する。</p> <p>【 】 3. 幅広い教養教育と専門科目を通して思考力・判断力・表現力を身につける。</p> <p>【 】 4. 地域を拠点に、国内外の子どもや保育の課題を解決するために貢献できる。</p> <p>【○】 5. 学則に定める修業年限を満たし、卒業に要する所定の単位数を修得した者に対し、短期大学士（保育）の学位を授与する。</p>
履修上の注意	心身ともに健康であること。学習態度や出席状況が良好であること。提出物は、期限内に提出していること。教育実習指導を履修している者。教育実習の意味を理解し、学ぶ目的をもって積極的に実習に参加すること。
オフィスアワー	毎週火曜日3限目 平中研究室（西研3-4）
課題に対するフィードバック方法	課題は、評価後に返却します。

講義科目名称： 保育・教職実践演習（幼稚園）

授業コード：

英文科目名称： Childcare Practice Seminar (Kindergarten)

開講期間	配当年	単位数(週時間)	科目必選区分
後期	2年	2単位(0-2)	選択科目（幼免・保育士：必修）
担当教員			
平中 尚子・糸洲 理子・吉浜 幸雅			
授業形態：演習	ナンバリング：EEI3252301		
添付ファイル			

授業のテーマ及び到達目標	<p>【テーマ】 保育者としての実践力の形成</p> <p>【到達目標】 知識・理解の観点：既習の講義、演習、実習を通して得た知識技能を統合し、幼児教育・保育を理解することができる。 技能の観点：保育者としての資質・能力を形成し、幼児教育・保育に必要な知識及び技能を身につけることができる。 態度の観点：自己の課題を認識し、幼児教育・保育の専門職としての自覚を持つことができる。</p>
授業の概要	<p>これまでの講義、演習、実習を通して得た知識技能を統合し、実践力のある保育者としての資質・能力を形成することを目的とする。 保育者として必要な「使命感・責任感・教育的愛情」「社会性や対人関係能力」「幼児理解や学級経営」「保育内容の指導力」等について演習等を通して具体的に学んでいく。</p>
授業計画	<p>第1回 講義概要説明、これまでの学習の振り返り 授業の始めに、講義概要について説明する。 保育者を目指したきっかけや理想の保育者像について、グループで検討し各自でまとめる。 【事前学習】教育実習を振り返り、理想の保育者像を明確にしておくこと。(2時間) 【事後学習】保育者を目指したきっかけや理想の保育者像についてまとめる。(2時間)</p> <p>第2回 保育者の資質・能力 保育者としての使命感、責任感、教育的愛情、社会性や対人関係能力について、グループで検討し各自でまとめる。 自己の課題を認識し、その解決に向けて、自己研鑽に励むなどの、常に学び続ける姿勢について理解する。 これまでの学習や教育実習を振り返り、知識及び技能等の課題を明確にする。 【事前学習】教育実習を振り返り、自己の課題を明確にしておくこと。(2時間) 【事後学習】保育者の使命感、責任感、教育的愛情、社会性や対人関係能力についてまとめる。(2時間)</p> <p>第3回 保育者の使命感・責任感・教育的愛情 保育者の職務に必要な使命感や責任感、教育的愛情について理解する。 【事前学習】配布資料を読み、保育者の職務内容、役割について事前にまとめる。(2時間) 【事後学習】保育者の使命感・責任感・教育的愛情について、授業で学んだ要点を整理する。(2時間)</p> <p>第4回 保育のプロセスと指導計画 教育実習で実践した指導案を見直し、幼児の実態を把握して指導計画を立案する重要性を理解する。 【事前学習】教育実習で使用した責任実習の指導案について見直しておく。(2時間) 【事後学習】教育実習の指導案について、反省・評価をまとめる。(2時間)</p> <p>第5回 幼児理解に基づいた学級経営：協同的な学びへ 幼児理解に基づいた学級経営について理解し、幼児の協同的な学びへ向かう姿について理解する。 【事前学習】配布資料を読み、幼児理解に基づいた学級経営について学びたいことを明確にする(2時間) 【事後学習】幼児理解に基づいた学級経営と協同的な学びについて、授業で学んだ要点を整理する。(2時間)</p> <p>第6回 幼児理解とカウンセリングマインド 保育実践の中の「幼児理解」と「カウンセリングマインド」について理解する。 【事前学習】配布資料を読み、「幼児理解」の方法についてまとめる。(2時間) 【事後学習】授業で学んだカウンセリングマインドの要点についてまとめる。(2時間)</p> <p>第7回 支援の必要な子への対応（事例検討） 支援の必要な子について理解し、一人ひとりを尊重した関わり方について理解する。 【事前学習】配布資料を読み、支援の必要な子を理解する要点をまとめる。(2時間) 【事後学習】支援の必要な子への関わり方の要点についてまとめる。(2時間)</p> <p>第8回 保護者及び地域との協働 保育を実践する際に必要となる、保護者や地域、関係機関との連携、協働について理解する。 【事前学習】配布資料を読み、他者との協働とはどういうことか事前にまとめる。(2時間) 【事後学習】保護者及び地域との協働について、授業で学んだ要点を整理する。(2時間)</p> <p>第9回 保幼こ小の接続について 保幼こ小の接続について理解する。 【事前学習】配布資料を読み、保幼こ小の接続について学びたいことを明確にする(2時間) 【事後学習】保幼こ小の接続について、授業で学んだ要点を整理する。(2時間)</p> <p>第10回 事例研究：事例検討・資料作成 自己の課題とする特定の教育テーマで事例を検討し、資料を作成する。 【事前学習】自己の課題から教育テーマを精選し、事例研究に必要な内容を明確にしておく</p>

	と。(2時間) 【事後学習】自己の課題から教育テーマを定め、事例研究発表に必要な資料を作成すること。(2時間)
第11回	事例研究発表及び討議 研究した事例を発表し、グループで討議、意見交換を行う。 【事前学習】事例研究発表に必要な資料を作成、準備しておくこと。(2時間) 【事後学習】発表した事例研究について、討議、意見交換で得た内容をまとめること。(2時間)
第12回	事例研究発表及び討議 研究した事例を発表し、グループで討議、意見交換を行う。 【事前学習】事例研究発表に必要な資料を作成、準備しておくこと。(2時間) 【事後学習】発表した事例研究について、討議、意見交換で得た内容をまとめること。(2時間)
第13回	事例研究発表及び討議 研究した事例を発表し、グループで討議、意見交換を行う。 【事前学習】事例研究発表に必要な資料を作成、準備しておくこと。(2時間) 【事後学習】発表した事例研究について、討議、意見交換で得た内容をまとめること。(2時間)
第14回	自己課題の明確化①：目指す保育者像 2年間の学習をとおして、目指す保育者像について考察する。 【事前学習】これまでの講義内容を振り返り、「保育者の資質・能力」と「保育者の使命感・責任感・教育的愛情」についてまとめておくこと。(2時間) 【事後学習】保育者の資質能力と保育者の使命感・責任感・教育的愛情について、自己を振り返り、目指す保育者像についてまとめること。(2時間)
第15回	自己課題の明確化②：資質能力の確認とまとめ 2年間の学習をとおして、自己の保育者としての資質・能力等について振り返る。 【事前学習】これまでの講義内容を振り返り、「保育者の資質・能力」と「保育者の使命感・責任感・教育的愛情」についてまとめておくこと。(2時間) 【事後学習】保育者の資質能力と保育者の使命感・責任感・教育的愛情について、自己を振り返り、自己課題を明らかにする。(2時間)
第16回	なし
授業における具体的な特色や方法	1) アクティブ・ラーニングを促す取組 <input type="checkbox"/> 2) 情報リテラシーに関する科目 <input type="checkbox"/> 3) ICTの活用 <input type="checkbox"/> 4) 初年次教育 <input type="checkbox"/> 5) 実践的PBL <input type="checkbox"/>
テキスト	文部科学省『幼稚園教育要領』フレーベル館 2017年 文部科学省『幼稚園教育要領解説』フレーベル館 2018年 内閣府・文部科学省・厚生労働省『幼保連携型認定こども園教育・保育要領』フレーベル館 2017年 内閣府・文部科学省・厚生労働省『幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説』フレーベル館 2018年 厚生労働省『保育所保育指針』フレーベル館 2017年 厚生労働省『保育所保育指針解説』フレーベル館 2018年
参考書	「改訂版 保育教職実践演習 これまでの学びと保育者への歩み—幼稚園 保育所編」小櫃智子・矢藤誠慈郎(編)わかば社 2018年 その他、必要な資料は適宜配布する。
評価方法	課題70%、事例研究20%、レポート10%
評価基準	各評価方法に関してルーブリック評価を行う。詳細は初回講義時に説明する。 成績評価は100点満点で行い、以下のとおり評定します。 秀 (A) 90点以上：到達目標を十分に達成し、非常に優れた成果を修めている 優 (B) 80点～90点未満：到達目標を十分に達成している 良 (C) 70点～80点未満：到達目標をある程度達成している 可 (D) 60点～70点未満：到達目標を最低限達成している 不可 (F) 60点未満：到達目標を達成していない 欠 (K) —：出席不足
卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連	<input type="checkbox"/> 1. キリスト教精神に基づき、他者と異文化への理解を深め、子どもに伝え、平和でよりよい保育環境を実現するための態度を身につける。 <input type="checkbox"/> 2. 保育者としての豊かな感性を身につけ、自らを律し他者との対話を通して、主体的に保育を実践する態度を追求する。 <input type="checkbox"/> 3. 幅広い教養教育と専門科目を通して思考力・判断力・表現力を身につける。 <input type="checkbox"/> 4. 地域を拠点に、国内外の子どもや保育の課題を解決するために貢献できる。 <input type="checkbox"/> 5. 学則に定める修業年限を満たし、卒業に要する所定の単位数を修得した者に対し、短期大学士（保育）の学位を授与する。
履修上の注意	※課題の提出期日は厳守すること。
オフィスアワー	平中：毎週*曜日*限目 平中研究室（西研3-4） 糸洲：毎週*曜日*限目 糸洲研究室（西研3-8） 吉浜：毎週*曜日*限目 吉浜研究室（*研**）
課題に対するフィードバック方法	平中：課題は、評価後に各自のメールアドレスへ返却する 糸洲：課題は、評価後に各自のメールアドレスへ返却する 吉浜：課題は、評価後に各自のメールアドレスへ返却する